

2019年度  
Q1連結累計期間決算及び  
業績予想（上期・通期）修正説明資料  
2019年8月9日



本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

# 内容

I. 2019年度Q1累計 連結決算概況	
1. 収支の状況	P3
2. 財務の状況	P8
3. 資源セグメントの状況	P12
II. 2019年度 業績予想（上期・通期）修正	
1. 総括	P13
2. 前回公表からの前提修正	P14
3. 前回公表からの予想収支修正	P17
4. 資源セグメントの前提修正	P20
5. 特記事項	P21
III. 配当予想	P24
IV. キャッシュ・フローについて	P24
V. 2019年度 感応度	P25

## I. 2019年度Q1累計 連結決算概況

### 1. 収支の状況

#### (1)総括

●下記①～③により、営業利益は39.9億円の赤字となりました。

①Q1における亜鉛価格の下落を主因とした製錬セグメントにおける在庫評価損の計上

②東証に適時開示としてリリース（2019年8月9日）した非鉄スラグ製品に関する費用計上

③資源セグメントにおける期ずれ影響等

その結果、経常利益は35.9億円の赤字、最終利益はCBHエンデバー鉱山の追加減損（3.3億）もあり、29.6億円の赤字となりました。

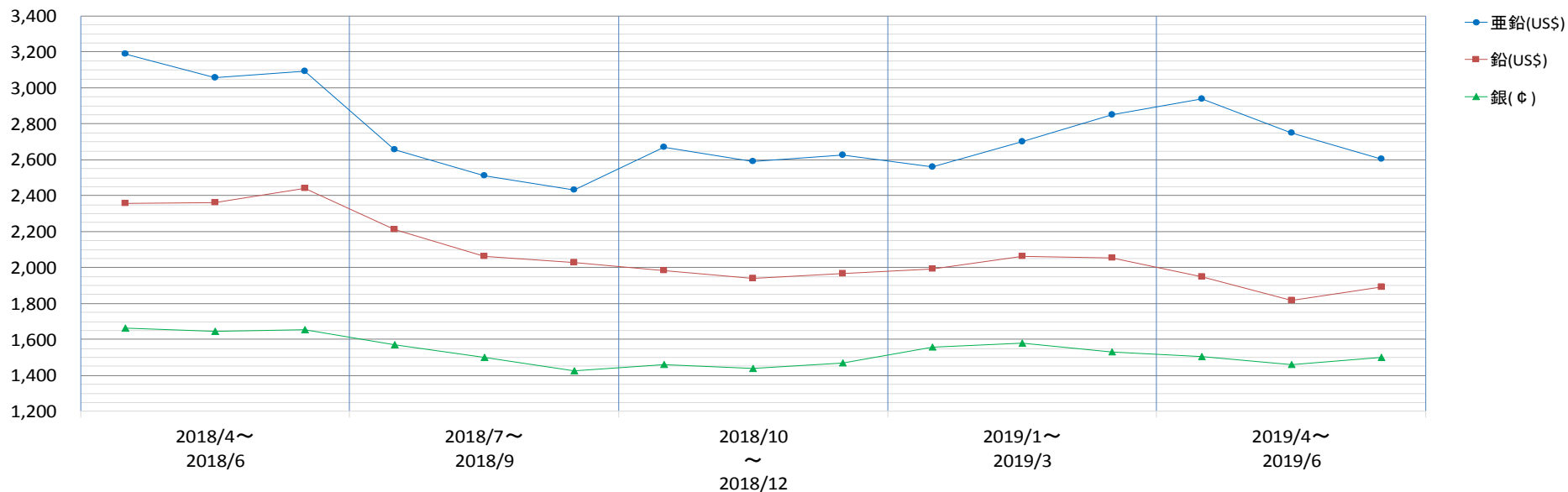
●前年同期比では、製錬セグメントにおける在庫評価損益の出方の違い等により、3利益とも大幅な減益となりました。

単位:億円

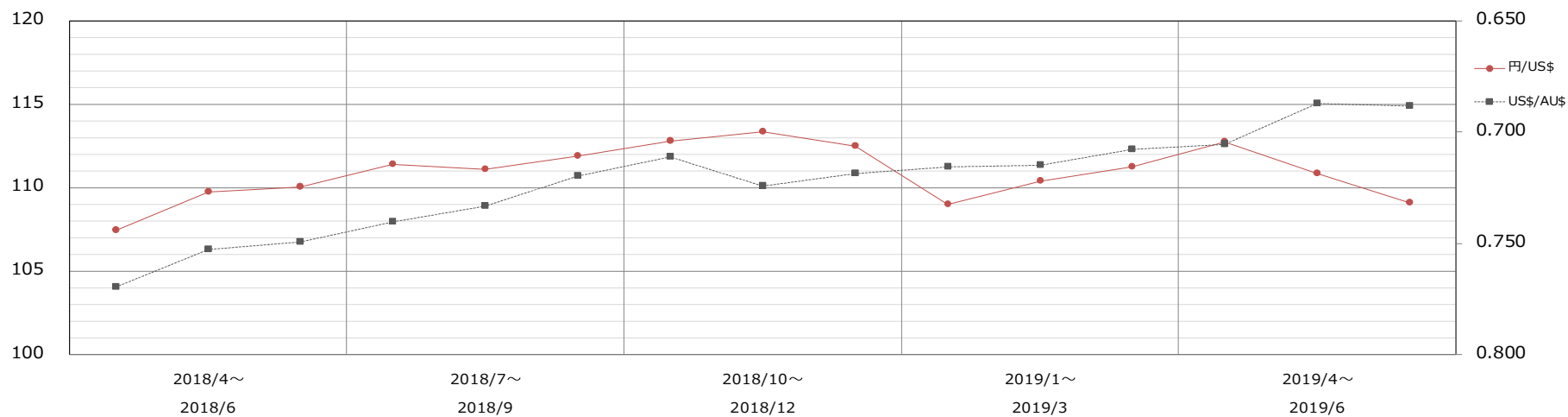
連結売上高	234
連結営業利益	△39.9
連結経常利益	△35.9
連結純利益	△29.6

# 1. 収支の状況

## (2) 市況推移



連結会計期間	連結会計期間
CBH社 会計期間	CBH社 会計期間



連結会計期間	連結会計期間
CBH社 会計期間	CBH社 会計期間

# 1. 収支の状況

## (3)前年同期比較(市況・生産量)

			前年同期	Q1累計	差(実額)	差(%)
市況	亜鉛(米\$/t)		3,114	2,763	△351	△11
	鉛(米\$/t)		2,387	1,886	△501	△21
	銀(米\$/toz)		16.5	14.9	△1.6	△10
	円/米\$		109.1	109.9	0.8	1
	米\$/豪\$(1-3月)		0.786	0.713	△0.073	△9
製錬セグメント 主要製品生産量	亜鉛製品(千t)		27.0	21.0	△6.0	△22
	鉛製品(千t)		25.1	23.6	△1.4	△6
	電気銀(t)		92	61	△31	△33
資源セグメント CBH社関連(1-3月)	粗鉱処理量 (千t)	エンデバー	143	92	△52	△36
		ラスプ	177	167	△11	△6
		計	320	258	△62	△19
	亜鉛精鉱生産量 (千dmt)	エンデバー	12.9	7.3	△5.6	△43
		ラスプ	12.6	11.4	△1.2	△9
		計	25.5	18.7	△6.8	△27
	鉛精鉱生産量 (千dmt)	エンデバー	6.9	3.1	△3.8	△54
		ラスプ	5.8	6.0	0.2	3
		計	12.7	9.2	△3.6	△28

# 1. 収支の状況

## (4)前年同期比較(収支)

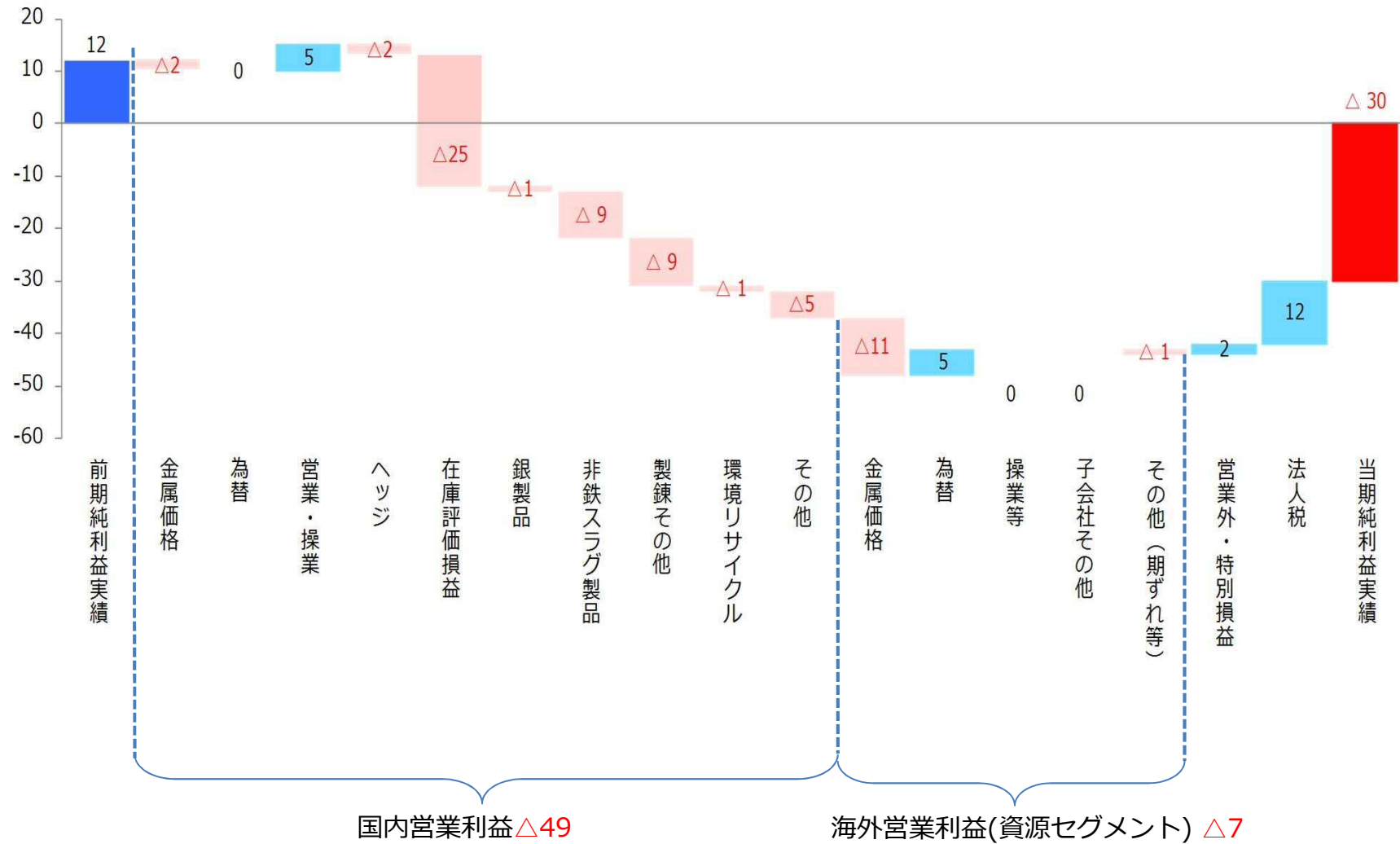
		前年同期	Q1累計	差(実額)	差(%)	
収支	売上高(億円)	307	234	△73	△24	
	営業利益(億円)	製錬	4.1	△37.9	△42.0	-
		資源	1.5	△5.8	△7.2	-
		電子部材	1.5	1.2	△0.3	△19
		環境・リサイクル	5.3	4.0	△1.3	△24
	その他 ※	1.4	0.1	△1.4	△96	
	調整額	2.2	△1.5	△3.7	-	
	計	16.0	△39.9	△55.8	-	
	経常利益(億円)	15.7	△35.9	△51.7	-	
	純利益(億円)	12.2	△29.6	△41.8	-	
	EBITDA(億円)	30.7	△23.7	△54.4	-	

※「その他」に係る営業利益には、「土木・建築・プラントエンジニアリング」セグメントに係る営業利益を含む。

# 1. 収支の状況

(4)前年同期比較(収支)

単位：億円



## 2. 財務の状況

### (1)貸借対照表(資産の部)

単位：億円

		2019年3月末 実績	2019年6月末 実績	差(実額)	
流動資産	現金・預金	102	112	10	
	受取手形・売掛金	163	146	△17	
	たな卸資産	424	417	△7	
	その他	40	43	3	
	計	730	718	△12	
固定資産	有形固定資産		389	386	△3
		内CBH社関係	75	74	△1
		(豪\$百万表示)	(96)	(94)	(△2)
	無形固定資産		119	122	3
		内CBH社関係	118	122	4
		(豪\$百万表示)	(151)	(155)	(4)
	投資その他	64	79	15	
計	572	587	15		
資産 合計		1,302	1,305	3	



## 2. 財務の状況








### (1)貸借対照表(負債・純資産の部)

単位：億円

			2019年3月末 実績	2019年6月末 実績	差(実額)
負債の部	支払手形・買掛金		71	53	△18
	有利子負債	CP	110	160	50
		短期借入金	118	115	△3
		長期借入金	300	305	5
		有利子負債計	528	580	52
	その他負債		148	157	9
	計		747	790	43
純資産の部	株主資本	資本金	146	146	0
		資本剰余金・自己株式	98	98	0
		利益剰余金	210	171	△39
		株主資本 計	454	415	△39
	その他包括利益累計額		101	99	△2
	計		555	514	△41
負債・純資産 合計			1,302	1,305	3

## 2. 財務の状況

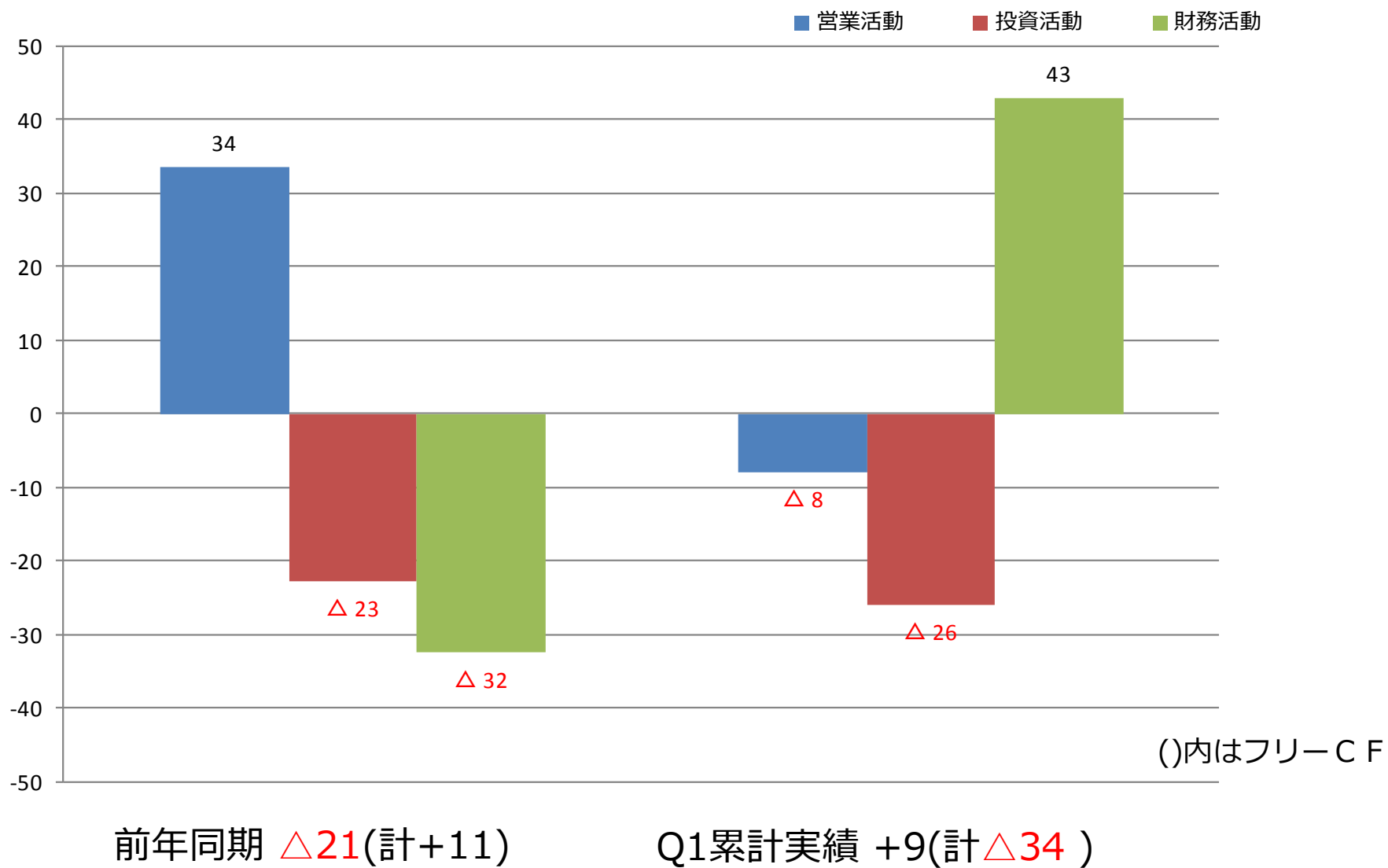
### (2) 主要財務指標の変化

	前年同期		Q1累計	評価
自己資本比率	45.5%		39.4%	悪化
D/Eレシオ	0.8倍		1.1倍	悪化
D/EBITDAレシオ (年換算)	4.2倍		△6.1倍	大幅悪化
純利益/自己資本(ROE) (年換算)	8.0%		△22.1%	大幅悪化
純利益/売上高	4.0%		△12.6%	大幅悪化
売上高/総資産	0.9回転		0.7回転	悪化
総資産/自己資本	2.2倍		2.4倍	増加

## 2. 財務の状況

### (3) キャッシュ・フローの推移

単位：億円



### 3. 資源セグメントの状況

前期比△7.2億円

⇒内、CBH社営業利益△6.2億円

(内、市況等他律要因△6.4億円)

#### ①エンデバー鉱山

前期比△7.0億円(内、市況等他律要因△2.6億円)

他律要因を除くと△4.4億円の減益

⇒品位低下などの要因から単位当たり製造原価上昇

#### ②ラスプ鉱山

前期比1.0億円(内、市況等他律要因△3.6億円)

他律要因を除くと4.6億円の増益⇒2018年Q4の単位原価の低い精鉱の払い出しによる改善

#### ③その他（期ずれ等）

前期比△1.0億円⇒期ずれ調整△1.0億円等

利益(億円)		前年同期	Q1累計	差(実額)	
CBH社営業利益	エンデバー鉱山	5.4	△1.6	△7.0	①
	ラスプ鉱山	4.6	5.6	1.0	②
	その他	0.4	0.1	△0.2	
	計	10.4	4.2	△6.2	
その他（期ずれ等）		△8.9	△9.9	△1.0	③
資源セグメント利益		1.5	△5.8	△7.2	

## Ⅱ. 2019年度 業績予想（上期・通期）修正

### 1. 総括

- 製錬セグメントにおいては、Q1での在庫評価損益のマイナス影響をQ2でリカバー出来ず、38億の赤字予想へ。資源セグメントは上期にラスプ鉱山での高品位鉱の採掘遅延による品位低下等が影響し、赤字幅が拡大し18億の赤字予想へ。その結果、下記の通り、3利益とも大きな下振れ予想に。
- 下期においては、製錬セグメントは在庫評価損の計上は沈静化。資源セグメントは、CBHエンデバー鉱山の操業は若干の増産を行うものの（P20～P21参照）、7月の解雇コストが影響し、5/9公表比では増益にはならず。資源セグメントにおいては、Q2・Q3でもエンデバー鉱山の減損を予想しており、結果として、通期3利益とも下記の通りの減益となり、最終利益は15億の赤字予想。

単位:億円

	上期		通期	
	2019/5/9 公表	2019/8/9 業績予想修正	2019/5/9 公表	2019/8/9 業績予想修正
連結売上高	515	492	1,060	990
連結営業利益	4.0	△45.0	46.0	△8.0
連結経常利益	6.0	△42.5	46.0	△7.0
連結純利益	△3.0	△41.0	30.0	△15.0

## 2. 前回公表からの前提修正

### (1)Q2・下期の考え方

		Q1前提	Q2前提修正	下期前提修正	
市況	亜鉛(米\$/t)	2,763	2,400	2,400	
	鉛(米\$/t)	1,886	2,000	2,000	
	銀(米\$/toz)	14.9	16.0	16.0	
	円/米\$	109.9	109.0	109.0	
	米\$/豪\$(1-12月)	0.713	0.700	0.700	
製錬セグメント 主要製品生産量	亜鉛製品(千t)	21.0	21.7	51.6	
	鉛製品(千t)	23.6	25.0	43.8	
	電気銀(t)	61	77	133	
資源セグメント CBH社関連(1-12月)	粗鉱処理量 (千t)	エンデバー	92	79	103
		ラスプ	167	169	374
		計	258	248	478
	亜鉛精鉱生産量 (千dmt)	エンデバー	7.3	5.7	10.0
		ラスプ	11.4	13.1	36.7
		計	18.7	18.9	46.7
	鉛精鉱生産量 (千dmt)	エンデバー	3.1	2.6	4.9
		ラスプ	6.0	6.4	20.0
		計	9.2	8.9	24.9

## 2. 前回公表からの前提修正

### (2) 上期前提修正差異

		5/9 公表ベース	今回修正上期	差(実額)			差(%)	
					Q1実績	Q2修正予想		
市況	亜鉛(米\$/t)	2,700	2,580	△120	-	-	△4	
	鉛(米\$/t)	2,000	1,950	△50	-	-	△3	
	銀(米\$/toz)	16.0	15.5	△0.5	-	-	△3	
	円/米\$	109.0	109.5	0.5	-	-	0	
	米\$/豪\$(1-6月)	0.725	0.710	△0.015	-	-	△2	
製錬セグメント 主要製品生産量	亜鉛製品(千t)	47.5	42.6	△4.9	△4.9	0.0	△10	
	鉛製品(千t)	49.2	48.6	△0.6	△0.6	0.0	△1	
	電気銀(t)	132	138	6	6	0	5	
資源セグメント CBH社関連(1-6月)	粗鉱処理量 (千t)	エンデバー	157	171	14	0	14	9
		ラスプ	362	335	△27	△11	△16	△7
		計	519	506	△13	△11	△2	△3
	亜鉛精鉱生産量 (千dmt)	エンデバー	12.3	13.0	0.7	0.0	0.7	5
		ラスプ	32.3	24.6	△7.7	△4.2	△3.5	△24
		計	44.6	37.6	△7.0	△4.2	△2.8	△16
	鉛精鉱生産量 (千dmt)	エンデバー	5.5	5.7	0.2	0.0	0.2	4
		ラスプ	14.6	12.4	△2.2	△1.6	△0.6	△15
		計	20.0	18.1	△1.9	△1.5	△0.4	△10

## 2. 前回公表からの前提修正

### (3) 通期前提修正差異

		5/9 公表ベース	今回修正通期	差(実額)			差(%)	
				上期修正予想	下期修正予想			
市況	亜鉛(米\$/t)	2,700	2,490	△210	–	–	△8	
	鉛(米\$/t)	2,000	1,975	△25	–	–	△1	
	銀(米\$/toz)	16.0	15.8	△0.3	–	–	△2	
	円/米\$	109.0	109.3	0.3	–	–	0	
	米\$/豪\$(1-12月)	0.725	0.710	△0.015	–	–	△2	
製錬セグメント 主要製品生産量	亜鉛製品(千t)	99.1	94.2	△4.9	△4.9	0.0	△5	
	鉛製品(千t)	93.0	92.4	△0.6	△0.6	0.0	△1	
	電気銀(t)	265	272	7	6	0	3	
資源セグメント CBH社関連(1-12月)	粗鉱処理量 (千t)	エンデバー	157	274	117	14	103	74
		ラスプ	726	710	△16	△27	10	△2
		計	883	984	101	△13	114	11
	亜鉛精鉱生産量 (千dmt)	エンデバー	12.3	23.1	10.8	0.7	10.0	87
		ラスプ	70.9	61.2	△9.7	△7.7	△2.0	△14
		計	83.2	84.3	1.1	△7.0	8.1	1
	鉛精鉱生産量 (千dmt)	エンデバー	5.5	10.6	5.1	0.2	4.9	94
		ラスプ	31.6	32.4	0.8	△2.2	2.9	2
		計	37.1	43.0	5.9	△1.9	7.8	16



### 3. 前回公表からの予想収支修正

#### (1)Q2・下期予想収支修正

			Q1実績 (A)	Q2予想修正 (B)	下期予想修正 (C)	通期予想修正 (A+B+C)
売上高(億円)			234	258	498	990
営業利益(億円)	製錬		△37.9	0.4	9.5	△28.5
		内、先入先出影響等	△21.6	△0.1	0.8	△20.9
		内、ヘッジ	0.5	0.0	0.0	0.5
	資源		△5.8	△11.7	15.0	△2.5
	電子部材		1.2	1.8	4.0	7.0
	環境・リサイクル		4.0	3.5	6.0	13.5
	その他 ※		0.1	0.4	3.5	4.0
	調整額		△1.5	0.5	△1.0	△2.0
	計		△39.9	△5.2	37.0	△8.0
経常利益(億円)			△35.9	△6.6	35.5	△7.0
純利益(億円)			△29.6	△11.4	26.0	△15.0
EBITDA(億円)			△23.7	11.3	67.6	55.2

※「その他」に係る営業利益には、「土木・建築・プラントエンジニアリング」セグメントに係る営業利益を含む。

### 3. 前回公表からの予想収支修正

#### (2) 上期予想収支修正差異

	5/9 公表ベース	今回修正上期	差(実額)		差(%)		
			Q1実績	Q2修正予想			
売上高(億円)	515	492	△23	△6	△17	△4	
営業利益(億円)	製錬	2.0	△37.5	△39.5	△38.2	△1.3	－
	資源	△8.0	△17.5	△9.5	△6.9	△2.6	－
	電子部材	4.0	3.0	△1.0	△0.5	△0.5	△25
	環境・リサイクル	8.0	7.5	△0.5	0.2	△0.7	△6
	その他 ※	3.0	0.5	△2.5	△1.2	△1.3	△83
	調整額	△5.0	△1.0	4.0	5.6	△1.6	－
	計	4.0	△45.0	△49.0	△41.1	△7.9	－
経常利益(億円)	6.0	△42.5	△48.5	△40.8	△7.7	－	
純利益(億円)	△3.0	△41.0	△38.0	△27.9	△10.1	－	
EBITDA(億円)	32.7	△12.4	△45.1	△39.2	△5.9	－	

※「その他」に係る営業利益には、「土木・建築・プラントエンジニアリング」セグメントに係る営業利益を含む。

### 3. 前回公表からの予想収支修正

#### (3) 通期予想収支修正差異

	5/9 公表ベース	今回修正通期	差(実額)			差(%)	
				上期修正予想	下期修正予想		
売上高(億円)	1,060	990	△70	△23	△47	△7	
営業利益(億円)	製錬	13.0	△28.5	△41.5	△39.5	△1.5	-
	資源	10.0	△2.5	△12.5	△9.5	△3.0	-
	電子部材	7.0	7.0	0.0	△1.0	1.0	-
	環境・リサイクル	16.0	13.5	△2.5	△0.5	△2.0	-
	その他 ※	6.0	4.0	△2.0	△2.5	0.5	△33
	調整額	△6.0	△2.0	4.0	4.0	0.0	-
	計	46.0	△8.0	△54.0	△49.0	△5.0	-
経常利益(億円)	46.0	△7.0	△53.0	△48.5	△4.5	-	
純利益(億円)	30.0	△15.0	△45.0	△38.0	△7.0	-	
EBITDA(億円)	103.4	55.2	△48.2	△45.1	△3.1	△47	

※「その他」に係る営業利益には、「土木・建築・プラントエンジニアリング」セグメントに係る営業利益を含む。

#### 4. 資源セグメントの前提修正

●後述5(1)の通り、

①Aエリアは、2019年初より採掘するも経済性が見込める品位の鉱体規模は限定的。

②規模拡大を目指し深部Bエリア南部延長部にてボーリング調査を行なったが、追加鉱体の見込み無しの判断。

③深部Bエリアにて品位改善の可能性有り。同エリア開発の経済性改善となる事より、追加のボーリングを継続し11月以降に評価予定。

●その結果、エンデバー鉱山は、下期（7月～12月）については、7月に従業員を174名から71名へと103名解雇、コントラクター全53名を契約解除した上で、減産シフトで操業維持し10万t程度の粗鉱処理を行うこととし、一方、深部Bエリアの追加ボーリングを集中して行なう。

●エンデバー鉱山は上記減産シフトの範囲内で比較的高品位の残存部分を採掘するものの、解雇コスト（3.3百万豪ドル）などもあり、下期は黒字にならず。ラスプ鉱山は、下期には高品位鉱の採掘を軌道にもどし、キャッチアップをはかる。

利益(億円)		Q1実績 (A)	Q2予想修正 (B)	下期予想修正 (C)	通期予想修正 (A+B+C)
CBH社営業利益	エンデバー鉱山	△1.6	△10.7	△4.9	△17.2
	ラスプ鉱山	5.6	△3.7	23.9	25.7
	その他	0.1	2.0	0.5	2.7
	計	4.2	△12.4	19.5	11.2
期ずれ等		△9.9	0.7	△4.5	△13.7
資源セグメント利益		△5.8	△11.7	15.0	△2.5

## 5. 特記事項

### (1) CBHエンデバー鉱山の状況

#### a. 2019/7月現在での探査結果

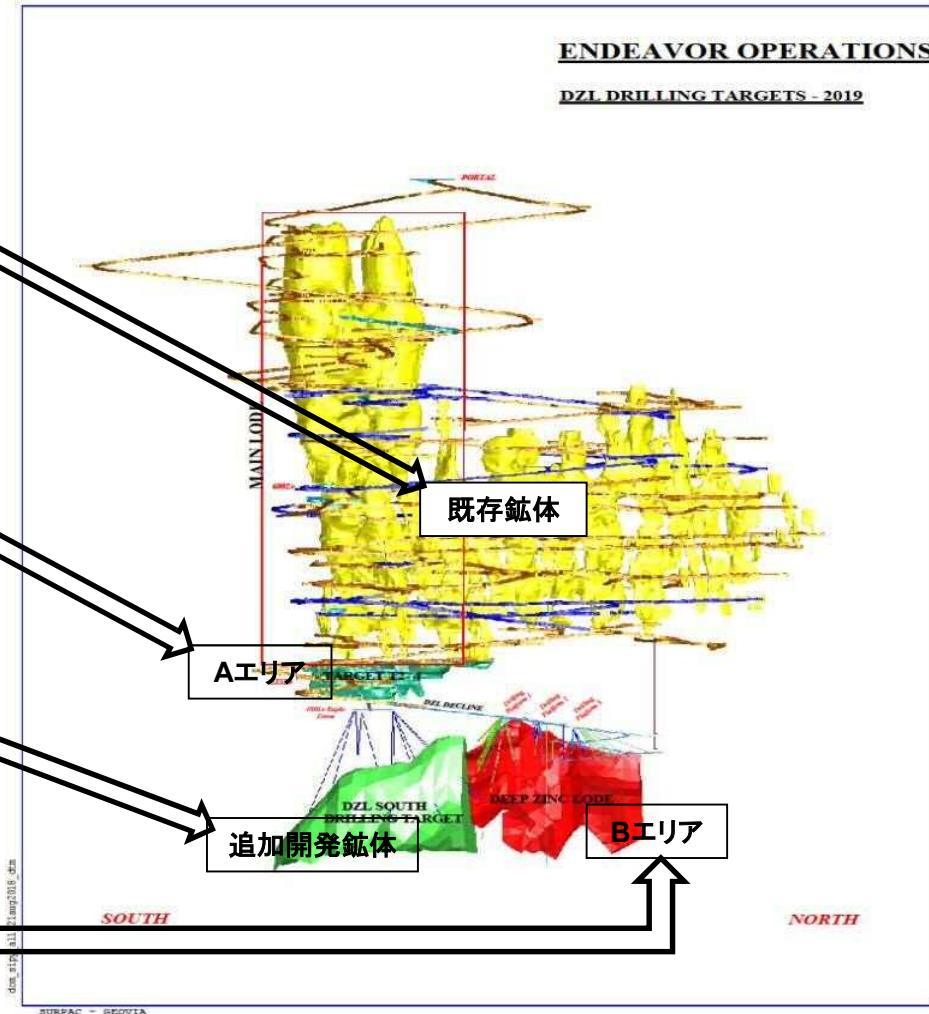
相当部分は掘りつくすも、経済性が見込まれる比較的品位が高い残存部分を2019/7-12に採掘

2019年より採掘開始するも経済性が見込める品位の鉱体規模は限定的。既存鉱体と併せて2019/7-12に採掘

規模拡大を目指し深部Bエリア南部延長部にてボーリング調査を行なったが、追加鉱体の見込み無しの判断

品位改善の可能性有り。同エリア開発の経済性改善となる事より、ボーリング調査を継続し2019年11月に評価予定

エンデバー鉱山(Main Lode鉱体付近) 断面図



## 5. 特記事項

### (1) CBHエンデバー鉱山の状況

#### b. 特損影響

深部Bエリアのボーリング調査結果に基づく2019年11月以降の経済性の結果判明にかかわらず、2019/4-9月の投資では、減損計上が必要。

以下、経済性の結果判明以降のシナリオ。

##### ①経済性ありの場合

2020年以降の採掘は別途計画予定。

##### ②経済性なしの場合

売却・休山・閉山等の選択肢をとる。追加の解雇費用（営業費用として約3.6百万豪ドル）の計上も検討。

単位：百万豪ドル

時間の経過 ↑	2019年10～12月 固定資産投資額（計画）		0	
	2019年7～9月 固定資産投資額（計画）	他に探査権予算3.1	3	2019年度連結Q3で減損予定
	2019年4～6月 固定資産投資額（CBH単体実績）		4	2019年度連結Q2で減損予定
	2019年1～3月 固定資産投資額（実績）		4	2019年度連結Q1で減損済
	2018年10～12月 固定資産投資額（実績）（別途探査権0.6）		13	2018年度連結Q4で減損済
	2018年9月末 減損テスト対象固定資産（別途探査権12.5）		37	2018年度連結Q3累計期間で減損

## 5. 特記事項

### (2) 「非鉄スラグ製品」の収支影響について

#### a. 経緯

過去に出荷した非鉄スラグ製品の一部において、土壤汚染対策法の土壤環境基準を超過した製品があること、ならびに、当社の管理不足により不適切な使用・混入がなされた可能性のあることが、調査の結果判明し、8月9日に東証に適時開示としてリリース（詳細は東証リリース資料を参照）。

#### b. 収支影響

本件については、現在までに約19億円（2018年度10億、2019年度1Q 9億で累計19億弱）を費用計上済み。今後50億円規模の費用が発生する可能性あるが、調査の状況や所有者の意向で変動するため、時期については未定。今後の調査結果によって費用は変動する可能性あり。

### Ⅲ. 配当予想

当初30億円の利益予想に対し、@100円配当を予想しておりました。このたび利益予想を下方修正しましたが、現段階での配当予想修正は行わず、今後の市況動向やC B Hエンデバー鉱山の探査結果なども考慮しつつ、修正の可否も含めて検討の猶予を頂きたく存じます。

### Ⅳ. キャッシュ・フローについて

Q1の営業キャッシュ・フローがマイナス、EBITDAもQ1実績、上期予想ともマイナスの状況となっております。通期ではEBITDA 55億円を確保の見込みではありますが、今後のキャッシュ・フロー改善に付き、鋭意対策につき検討を進めて参ります。



## V. 2019年度 感応度

	変動幅	2018年度試算		2019年度試算		増減	
		連結営業利益 影響額	内CBH	連結営業利益 影響額	内CBH	連結営業利益 影響額	内CBH
亜鉛	\$10 / t	¥50百万	¥34百万 (豪\$410千)	¥56百万	¥40百万 (豪\$500千)	+¥6百万	+¥6百万 (+豪\$90千)*
鉛	\$10 / t	¥28百万	¥23百万 (豪\$280千)	¥33百万	¥28百万 (豪\$360千)	+¥5百万	+¥5百万 (+豪\$80千)*
円/米\$	1円 / 米\$	¥64百万	-	¥64百万	-	¥0百万	-
米\$/豪\$	0.01	豪\$ 3.7百万	同左	豪\$ 2.8百万	同左	△豪\$0.9百万	同左

円換算は79.0円/豪\$を使用

\* 2018年度は年内精鉱生産量の1/3につき、キャップとフロアーを固定したオプションを契約しており、市況感応度はキャップ・フロアー内の市況を前提としたが、2019年度はこのような影響がないために影響額が増加した。